



—プロ野球生活を振り返って印象に残っているシーンを教えてください。
プロ野球生活の中でうれしかった瞬間は、やはり初めてヒットを打った時です。ファーム（二軍）にいる期間が長かったこともあり、その中で金本さん、掛布さんに、舞台を用意していただきたい。小さい頃から大好きだったジャイアンツ戦で、プロとしての一步目をスタートできたことは、本当に印象に残っています。

一度重なるけがや大腸がんの治療など、どのような気持ちで困難と向き合ってきたのでしょうか？

—プロ野球選手を志したきっかけを教えてください。
友達が野球をしているところを見て、野球を始めて、そしてプロ野球を見るようになり、高校野球を見るようにしていったという感じです。ジャイアンツ戦は地上波で放送されていたので、数多く目にして、プロ野球選手への憧れを持っていましたね。

—寄居町のファンの存在はどのように残っていましたか？
最近では地元からの応援をSNSで見る機会が多くて、本当にありがとうございました。

原口文仁さん ヒーローインタビュー

HERO
INTERVIEW

と思つていました。その前からも地元の声をよく、友達や知り合いから聞いていました。町を挙げて応援していただいていることは、肌で感じていたので、それに応えたいという気持ちで試合に臨んでいました。

—プロ野球選手を目指す、町内の子どもたちへアドバイスをお願いします。
夢や目標を高いところに設定し、その目標から逆算して、小さい目標をどのようにクリアしていくかが大切です。それは明日の目標で構わないし、一週間後、一ヶ月後の目標でも構いません。小さな目標を一つ一つクリアしていくことが、大きな目標にたどり着く道だと思います。努力をコツコツ積み重ねていけば、レベルは必ず上がっていくと思います。

—最後に町民の皆さんへメッセージををお願いします。

プロ野球生活16年間、本当に幸せになりました。この16年があるのは、寄居町で育ったおかげであり、町全体で応援していただいたことが僕の力になりました。これからも一生懸命練習を頑張ります」と話してくれました。

—寄居町のファンの存在はどのように残りましたか？
ななものでしたか？

最近では地元からの応援をSNSで見る機会が多くて、本当にありがとうございました。

Interview

原口さんが小学4年生から所属した少年野球チーム「キングフィッシャーズ」（当時：寄居ビクトリーズ）の皆さんにお話を伺いました。



キングフィッシャーズ・寄居野球の皆さん

ありがとう！原口文仁さん

原口文仁さん（城南中出身）が今季限りで現役を引退されました。

阪神タイガースに入団して16年、お疲れさまでした。多くの感動をありがとうございました！



原口さんのグッズを展示



10月、役場1階展示スペースで原口さんのユニフォームなどのグッズを展示しました。展示品のご協力をいたしました坂本頼章さん（中町）は「プロ初出場された時、とてもうれしかったことを覚えています。阪神タイガースの中でも特に記憶に残る選手でした。引退セレモニーのスピーチも素晴らしいです」と熱く語っていました。

※展示は終了しました。

引退セレモニー



10月2日の引退セレモニーで原口さんは「大病を患った時、どうなるか分からぬ命を病院関係者の皆様に救っていただきました。今こうしてこの場に立っていることがどれだけ幸せなことか実感しています。タイガースファンは世界一です。幸せな野球人生を、最高の時間をありがとうございました」と感謝の思いを伝えました。